

泉の成開

郡山女子大学図書館報 第13号 平成19年6月



耐震補強工事の完了した郡山女子大学図書館
(2007年5月撮影)

題字 郡山女子大学学長 関口富左

目 次

「大学の使命と図書館」	
郡山女子大学図書館 図書館長 山田 幸二	2
耐震補強工事完了後の大学図書館の姿をご紹介します(1)	3
耐震補強工事完了後の大学図書館の姿をご紹介します(1)	4

大学の使命と図書館

郡山女子大学図書館
図書館長 山田 幸二

大学に対する現代社会の要請は、人間形成のための教育を基本とし、学問の裾野を広げ、視野の広い専門的知識を培う教育と知の創造発展ならびに人間生活向上のための研究活動である。

大学の使命は、人文、社会、自然の各分野を融合した広い視野と様々な角度から物事を見る能力、自主的かつ総合的な思考で的確に判断する能力、公共心等豊かな人間性と社会性を育む教育である。また、大学は自学自習によって裾野の広い学問を学び、感性、感動を培い豊かな人間性を育む場所である。

知識の伝達(講義)は大学の中心的な活動として行われている。しかし学問が専門的に細分化され、そのため知識の伝達は狭く高度な専門の学問の伝達が行われることになり、周囲の学問との関連がなく部分的かつ断片的となる。

教授は、自分の専門的で狭い知識だけの押しつけになる知識の伝達だけではなく、文系理系を融合した広い視野の知識を持つの講義が望まれる。その方が、学生の学問に対する刺激は大きいと推察される。

大学なればこそ、専門とする学問の真理を探究することが求められ、さらに独創的な知識を生み出す研究活動が社会から要請されている。研究活動によるその成果は、学問の発展に寄与すると同時に創造力、俯瞰的な思考力、真理の探求力などを培う行動である。大学での研究は、研究のための研究に留まらず、地域社会の発展、人間生活の向上発展に寄与すると同時に教育の源泉でもある。

本学の図書館は、建学の精神に則り本学に在籍する教職員、大学院生、大学生、短期大学生および附属高等学校の生徒に対する教育研究の支援センターとして設置されている。現在の図書館棟は昭和41年に新設されたが、郡山開成学園の建築物に対する耐震事業の一環として安全、安心に利用できる図書館になるための耐震補強工事を実施した。その際、内部のリニューアル工事を併せて行い、自学自習の場としての快適な環境を整備し、大学の使命を達成するための学びの館としての施設設備を整えた。

図書館は、教育研究を支援するため、利用者が必要とする情報資料を提供するため、人文、社会、自然の各分野の図書や専門分野の学術雑誌の充実、情報リテラシー教育への取り組みとしてのオンラインデータベースや電子ジャーナルの提供などの活動を行っている。特に学生、生徒の自学自習を支援するため、開館時間の延長やレファレンスサービスの充実、ホームページを利用した広報活動を行っている。

また、知的資源の共有という概念から他の大学・公共図書館との連携を深めるため、福島県内大学図書館連絡協議会、東北地区大学図書館協議会、私立大学図書館協会、日本図書館協会などの各種図書館関係団体に加盟し、文献複写、現物貸借等の相互利用業務に活用している。

図書館は幅広い教養と高度な専門知識を得るための支援活動を行っています。

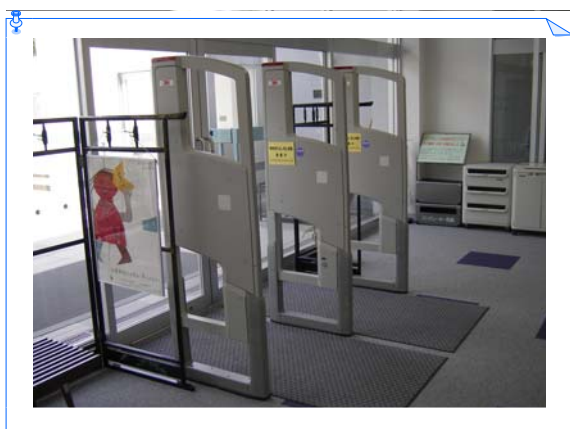


図書館棟2階正面入口

耐震補強工事完了後の
大学図書館の姿をご紹介します。（その1）



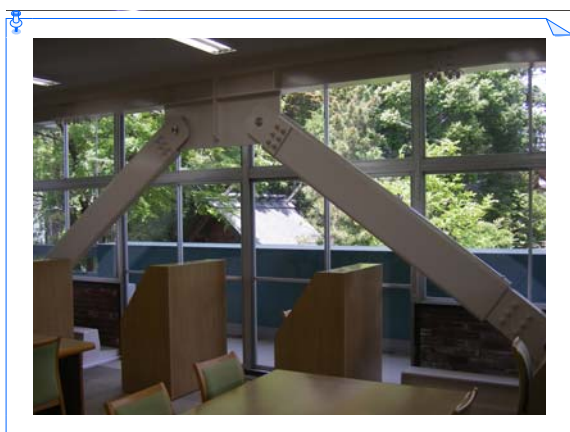
図書館閲覧室入口



正面入口に設置された
BDS(貸出手続確認装置)



2階エントランスの
新設されたブラウジングルーム



2階に施工された耐震補強

耐震補強工事完了後の
大学図書館の姿をご紹介します。（その2）



「赤松の庭」から見る図書館棟



図書館棟の隣りを流れる
「せせらぎ小路」

編集後記

図書館報第13号をお届けします。今号では耐震補強工事の終了した図書館棟をご紹介します。

ご意見、感想などありましたら遠慮なくお知らせください。

(W)



「せせらぎ小路」から見る図書館棟



南側から見る図書館棟

郡山女子大学図書館のある「図書館棟」は平成18年8月から9月にかけて耐震補強工事が施工されました。この工事により、図書館棟は阪神・淡路大震災クラスの地震にも耐えられる、学生にも安心して利用できる施設になりました。

郡山女子大学図書館報〈開成の泉〉第13号
平成19(2007)年6月29日発行

編集：郡山女子大学図書館報編集委員会

発行：郡山女子大学図書館

<http://library.koriyama-kgc.ac.jp>